

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果

猪名川町教育委員会

《調査の目的》

令和4年4月19日（火）に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果についてお知らせします。
この調査の目的は、以下のとおりです。

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することによって、国や全ての教育委員会における教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図る。
- (2) 学校における個々の児童生徒への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

《実施の状況》

- (1) 調査の対象 猪名川町内の小学校第6学年の全児童（6校302名）
猪名川町内の中学校第3学年の全生徒（2校313名）
- (2) 調査内容 ①教科に関する調査
小学校第6学年・・・国語、算数、理科
中学校第3学年・・・国語、数学、理科
②質問紙調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

《教科に関する調査について》

【調査結果の見方】

- (1) 「町平均」の数値は、令和4年度全国学力・学習状況調査において、猪名川町内の小学校6年生と中学校3年生それぞれの児童生徒全員（実施した児童生徒）の平均値を表したものです。
- (2) 「全国平均」の数値は、令和4年度全国学力・学習状況調査において、調査対象となった全国の公立小・中学校在籍の児童生徒全員（実施した児童生徒）の平均値を表したものです。

■小学6年生

| 教科 | 町平均正答率 (%) | 全国平均正答率（公立） (%) |
|----|---------------|--------------------|
| 国語 | 61 | 65.6 |
| 算数 | 60 | 63.2 |
| 理科 | 57 | 63.3 |

■中学3年生

| 教科 | 町平均正答率 (%) | 全国平均正答率（公立） (%) |
|----|---------------|--------------------|
| 国語 | 67 | 69.0 |
| 数学 | 50 | 51.4 |
| 理科 | 46 | 49.3 |

■小学6年生（国語）

| | | 対象問題数 (問) | 町平均正答率 (%) | 全国平均正答率 (%) |
|-----------------------|-------------------------------|--------------|---------------|----------------|
| 全体 | | 14 | 61 | 65.6 |
| 学習 指導 要領の 内容 | 知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 5 | 65.6 | 69.0 |
| | 知識及び技能 (3) 我が国の言語文化に関する事項 | 1 | 66.6 | 77.9 |
| | 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと | 2 | 62.1 | 66.2 |
| | 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと | 2 | 40.9 | 48.5 |
| | 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと | 4 | 62.7 | 66.6 |

【課題のあった問題】

①全国と比べて正答率の差が大きかった問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|---|---------|------|----------|-----|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 3 一 | 【文章2】の□の部分、どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する。 | 50.0 | 59.2 | 5.3 | 2.5 |
| 3 四 | (一) から (二) に書き直した際、気を付けた内容として適切なものを選択する。 | 66.6 | 77.9 | 12.6 | 5.9 |

3一 学習指導要領の内容の「書くこと」の領域の問題。正答率の差は、－9.2ポイント。正答は1だが、18.9%の児童が2を、16.6%の児童が4を誤答で選択していた。2を選択した児童は、引用して書くことと自分の考えを書くこととの区別ができなかったと考えられる。4を選択した児童は、考えの理由を最初には書いていないことを捉えることができなかったと考えられる。

3四 学習指導要領の内容の「我が国の言語文化に関する事項」の問題。正答率の差は、－11.3ポイント。正答4を選択する問題にも関わらず、無解答率が高かったことから、時間切れで本設問（最後の問題）まで辿り着けなかった児童がいることが考えられる。

②無解答率が高かった記述式の問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|----------------------------------|---------|------|----------|------|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 3 二 | 【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く【記述式】 | 31.8 | 37.7 | 18.5 | 14.5 |

3二 学習指導要領の内容の「書くこと」の領域の問題。本設問中の【伝え合いの様子の一部】で川口さんが指摘している【文章2】のよさや、自分なりに考えたよさを書く必要がある。無解答率の高さから、文章のよさを見付ける力や、見付けたよさを言葉で表現する力に課題が見られる。

■小学6年生（算数）

| | | 対象問題数 (問) | 町平均正答率 (%) | 全国平均正答率 (%) |
|-----------------------|----------|--------------|---------------|----------------|
| 全体 | | 16 | 60 | 63.2 |
| 学習 指導 要領の 領域 | A 数と計算 | 6 | 66.7 | 69.8 |
| | B 図形 | 4 | 61.7 | 64.0 |
| | C 変化と関係 | 4 | 48.5 | 51.3 |
| | D データの活用 | 3 | 67.7 | 68.7 |

【課題のあった問題】

①全国と比べて正答率の差が大きかった問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|------------------|---------|------|----------|-----|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 1 (2) | 14と21の最小公倍数を求める。 | 64.1 | 72.2 | 3.7 | 3.0 |

1 (2) 学習指導要領の内容の「数と計算」の領域の問題。正答率の差は、 -8.1 ポイント。「倍数・約数」については小学5年生で学習する。誤答で7と最大公約数を求めた児童が16.6%いたことから、「倍数・約数」が定着していないことが考えられる。

②正答率が最も低かった問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|---|---------|------|----------|-----|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 2 (3) | 果汁が含まれている飲み物の量を半分にした時の、果汁の割合について正しいものを選ぶ。 | 17.3 | 21.4 | 3.3 | 1.1 |

2 (3) 学習指導要領の内容の「変化と関係」の領域の問題。正答は3だが、69.1%の児童が1を誤答で選択していた。このような児童は、果汁が20%含まれている飲み物を2人で等しく分けた時、飲み物の量が2分の1になると、同様に果汁の割合も2分の1になると誤って捉えていると考えられる。果汁の割合は飲み物の濃さを表しており、量を半分にしても濃さは変わらないといった生活経験と関連付けながら、割合について理解できるようにすることが大切である。

③無解答率が高かった記述式の問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|-------------------------------------|---------|------|----------|-----|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 3 (4) | 1年生の希望をより叶えるためのポイント数の求め方と答えを書く【記述式】 | 66.1 | 67.7 | 9.3 | 8.6 |

3 (4) 学習指導要領の内容の「数と計算」の領域の問題。本設問中の【あかりさんの求め方】に、かくれんぼを希望している1年生14人と6年生8人の数字を入れ換えて説明し、 $10 \times 14 + 5 \times 8 = 180$ を求める問題。無解答の児童は、問題や表から必要な数値を読み取る力に課題が見られる。

■小学6年生（理科）

| | | 対象問題数 (問) | 町平均正答率 (%) | 全国平均正答率 (%) |
|-----------------------|-----------------|--------------|---------------|----------------|
| 全体 | | 17 | 57 | 63.3 |
| 学習 指導 要領の 領域 | A「エネルギー」を柱とする領域 | 4 | 44.7 | 51.6 |
| | A「粒子」を柱とする領域 | 5 | 54.0 | 60.4 |
| | B「生命」を柱とする領域 | 5 | 69.5 | 75.0 |
| | B「地球」を柱とする領域 | 5 | 57.9 | 64.6 |

【課題のあった問題】

①全国と比べて正答率の差が大きかった問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|---|---------|------|----------|-----|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 1 (3) | 昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ。 | 61.5 | 73.1 | 1.7 | 0.3 |

1 (3) 学習指導要領の内容の「生命」を柱とする領域の問題。正答率の差は、-11.6ポイント。正答は2だが、30.6%の児童が1を誤答で選択していた。このような児童は、ナナホシテントウという言葉だけで1を選択し、「昆虫の体のつくりを説明する」という問題の意味が理解できていないことが考えられる。

②無解答率が高かった問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|------------------------------------|---------|------|----------|------|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 3 (4) | 問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く【記述式】 | 23.6 | 35.1 | 18.6 | 11.2 |

3 (4) 学習指導要領の内容の「エネルギー」を柱とする領域の問題。本設問中の【結果】の表より、20分後も、40分後も黒色の缶の水温が他の色の缶よりも高くなっていることについて記述する問題。無解答率の高さから、観察・実験で得た結果について分析して、解釈し、具体的な数値などを根拠として表現する力に課題が見られる。

■中学3年生（国語）

| | | 対象問題数 (問) | 町平均正答率 (%) | 全国平均正答率 (%) |
|------------------------|-------------------------------|--------------|---------------|----------------|
| 全体 | | 14 | 67 | 69.0 |
| 学習 指導 要領の 領域等 | 知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 6 | 70.9 | 73.1 |
| | 知識及び技能 (2) 情報の扱い方に関する事項 | 1 | 46.3 | 44.5 |
| | 知識及び技能 (3) 我が国の言語文化に関する事項 | 3 | 70.5 | 69.2 |
| | 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと | 3 | 56.1 | 63.1 |
| | 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと | 1 | 46.3 | 44.5 |
| | 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと | 2 | 64.2 | 66.8 |

【課題のあった問題】

①学習指導要領の内容の「話すこと・聞くこと」の領域の問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|--|---------|------|----------|------|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 1 三 | スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く【記述式】 | 43.5 | 51.8 | 15.0 | 16.2 |

1三 国語14問中、全国と比べて正答率の差が最も大きく、無解答率も最も大きかった問題。正答率の差は、-8.3ポイント。【川口さんのスピーチ】の中から工夫したい部分を取り上げ、どのように工夫して話すのかについて具体的に考えて記述する問題。正答率の低さから、意図を明確にして話し方の工夫を具体的に考える力に課題が見られる。

■中学3年生（数学）

| | | 対象問題数 (問) | 町平均正答率 (%) | 全国平均正答率 (%) |
|-----------------------|----------|--------------|---------------|----------------|
| 全体 | | 14 | 50 | 51.4 |
| 学習 指導 要領の 領域 | A 数と式 | 5 | 55.7 | 57.4 |
| | B 図形 | 3 | 45.4 | 43.6 |
| | C 関数 | 3 | 41.5 | 43.6 |
| | D データの活用 | 3 | 54.1 | 57.1 |

【課題のあった問題】

①全国と比べて正答率の差が大きかった問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|-------------|---------|------|----------|------|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 1 | 42を素因数分解する。 | 44.2 | 52.2 | 15.4 | 11.5 |

1 学習指導要領の内容の「数と式」の領域の問題。正答率の差は、 -8.0 ポイント。「素因数分解」については、中学1年生で学習する。正答率の低さから、学習内容が定着していないことが考えられる。誤答の中には、「2、3、7」と42の素因数のみでの記述で、積で表すといった素因数分解することの意味を理解していなかったり、「1、2、3、6、7、14、21、42」と約数を求めたりしたものもあった。

②無解答率が高かった記述式の問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|--|---------|------|----------|------|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 9 (2) | $\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する。【記述式】 | 11.9 | 12.5 | 38.5 | 38.5 |

9 (2) 学習指導要領の内容の「図形」の領域の問題。本設問中で、すでに $\triangle ABE \equiv \triangle CFB$ がわかっていることから、 $\angle AEB = \angle CBF$ (条件①) が言える。また、 $\angle EAB = 150^\circ$ がわかっていることから、 $\angle ABE + \angle AEB = 30^\circ$ (条件②) であることも言える。条件①②より、 $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ になることを説明することができる。無解答率の高さから、説明の見通しや構想を立てる力、図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力に課題が見られる。

■中学3年生（理科）

| | | 対象問題数 (問) | 町平均正答率 (%) | 全国平均正答率 (%) |
|-----------------------|----------------|--------------|---------------|----------------|
| 全体 | | 21 | 46 | 49.3 |
| 学習 指導 要領の 領域 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 6 | 38.7 | 41.9 |
| | 「粒子」を柱とする領域 | 5 | 44.9 | 50.9 |
| | 「生命」を柱とする領域 | 5 | 54.7 | 57.9 |
| | 「地球」を柱とする領域 | 6 | 42.1 | 44.3 |

【課題のあった問題】

①全国と比べて正答率の差が大きかった問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|--|---------|------|----------|-----|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 6 (2) | 陸上のB地点で古生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する。 | 49.0 | 60.3 | 0.3 | 0.6 |

6 (2) 学習指導要領の内容の「地球」を柱とする領域の問題。正答率の差は、-11.3ポイント。正答は3だが、22.4%の生徒が2を誤答で選択していた。このような児童は、過去の大地の変動について、プレートの水平方向の移動に関する理解ができていないことが考えられる。プレートが移動して海底が山脈になった例などを示しながら、水平方向の移動にも着目できるようにすることが大切である。

②無解答率が高かった記述式の問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|--|---------|------|----------|------|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 8 (2) | 予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する。【記述式】 | 47.8 | 55.1 | 15.7 | 14.9 |

8 (2) 学習指導要領の内容の「生命」を柱とする領域の問題。アリが嗅覚による情報をもとに行列をつくるかどうか調べる実験において、操作Aでは、アリが腹部から出し、地面に付けながら歩く「においの物質」を手でこすって消している。嗅覚による情報をもとにしていれば、アリは行列をつくらないと予想するが、本設問では、予想と異なる結果が出る場合についても考えている。これらのことから、吹き出しの空欄には「においを消す」ことについての記述が入るが、無解答率の高さから、予想や仮説と異なる結果が出る場合を想定し、探求の方法について検討する力に課題がある。

《質問紙調査について》

児童生徒質問紙調査は、調査する学年の児童生徒を対象とした、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査です。小・中学生ともに75の項目について調査が行われました。

それぞれ調査項目ごとの猪名川町と全国の回答結果の中から「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合が高かったものから、「良好な結果として捉えられる点」を、肯定的な回答の割合が低かったものから、「猪名川町の課題として捉え、今後改善が求められる点」を分析し、以下に挙げています。

【小学校6年生】

良好な結果として捉えられる点

- ・家に、10冊以上本がある（雑誌、新聞、教科書は除く）。
- ・困りごとや不安を、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。

猪名川町の課題として捉え、今後改善が求められる点

- ・算数・理科への関心・意欲。
- ・携帯電話・スマートフォンやコンピュータなどの使い方。
- ・自分にとってどのような学習が必要か考えた予習復習への取り組み。
- ・読書活動の充実。
- ・自尊感情や他者意識の向上。
- ・ICT機器の活用。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善。

【中学校3年生】

良好な結果として捉えられる点

- ・国語への関心・意欲。
- ・地域の行事への参加。
- ・困っている人を助ける、いじめを許さない、友達と協力するなど、まわりの人を大切にしようとする気持ち。

猪名川町の課題として捉え、今後改善が求められる点

- ・数学・理科への関心・意欲。
- ・1日あたりのSNSや動画視聴などの時間。
- ・自分にとってどのような学習が必要か考えた予習復習への取り組み。
- ・読書活動の充実。
- ・キャリア教育の充実。
- ・ICT機器の活用。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善。

学力向上のための今後の改善方策について

【猪名川町の学力の課題】

令和4年度全国学力・学習状況調査（小学6年生、中学3年生対象）の結果及び過去数年間の同調査の結果、猪名川町学習到達度調査（小学5年生、中学2年生対象）の結果から、猪名川町の児童生徒の学力と学習習慣について、次のような課題があることが判明しました。

- ・国語では、「書くこと」の領域に課題がある。[小学校]
- ・国語では、「話すこと・聞くこと」の領域に課題がある。[中学校]
- ・3教科とも無解答率が高く、記述式問題に課題がある。[小・中学校]
- ・「携帯電話・スマートフォンやコンピュータなどの使い方について、家の人と約束したことを守っている」と回答した児童の割合が低い。[小学校]
- ・1日あたりのSNSや動画視聴などの時間が1時間以上であると回答した生徒が多い。[中学校]
- ・「毎日1時間以上、家庭学習している」児童生徒の割合が低い。[小・中学校]
- ・読書への関心・意欲が低い。[小・中学校]

【今後の改善方策】

以上の結果から、以下の改善方策に重点的に取り組み、児童生徒の学力向上に努めていきます。

■授業改善

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善支援。
- ・授業力向上や学級づくりのための教員研修の充実。
- ・ICT機器の効果的な利活用。
- ・いなぼう学習タイムによる基礎・基本の定着。
- ・「授業（保育）のユニバーサルデザイン化」の推進。
- ・学生や、地域住民による学校支援ボランティアの派遣。

■家庭学習の定着

- ・放課後学習の充実・拡充。
- ・宿題の量、出し方の工夫や予習復習の推進。

■読書活動の推進

- ・学校図書館を充実させ、本に触れる機会を増やす。